

- きめ細やかな温度管理で健苗を育成しよう！
- 田植えは天気の良い日を選んで行き適期内に終えよう！
- 水管理は、日中止水・夜間かんがいの基本を守ろう！
- 農作業事故の発生には十分注意しよう！

<育苗管理>

丈夫な苗づくりのため、天候に合わせたきめ細やかな温度・水管理に努める。田植え5～7日前から、降霜や強風が予想される時以外は、夜間もハウスやトンネルを開放して外気に慣らす。

<本田作業>

- 1 田植えは、温暖な日を選び、5月25日頃までに終了する。
- 2 活着を促進するため、日中止水・夜間かんがい（夕方又は早朝に入水）の基本を守り、掛け流しは行わない。また、温暖な日は2～3cm程度の浅水で水温の上昇を図り、低温の日は苗が冠水しない4～5cm程度のやや深水にして保温する。
- 3 除草剤は、前年発生した雑草を考慮して選定し、使用基準を守って使用する。除草効果の維持と水質汚染防止のため、散布後7日間は落水や掛け流しは行わない。

<病虫害防除>

- 1 例年いもち病が発生するほ場では、育苗箱施用剤又は側条施用剤（ペースト肥料用の側条施肥田植機で施用）により予防防除する。
- 2 補植用苗を放置したままにするといもち病の発生源となるので、補植が終わったら直ちに処分する。
- 3 カメムシ類の生息地となる畦畔のイネ科雑草は、開花・結実する前に刈り取る。

<農薬の飛散防止>

育苗跡地で野菜等を栽培する場合、農薬が土壤に浸透しないように、育苗箱施用剤はハウスの外で処理するなどの対策を行う。

<農作業事故の発生防止>

- 1 農業機械の点検・整備を徹底し、点検時にはエンジンを止める。
- 2 農作業時は適度に休息をとりながら、焦らず、急がず、慎重に行う。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	農産園芸課 稲作振興グループ 腰巡総括主幹
電話番号	直通 017-734-9480 内線 5073
報道監	農林水産部 船水次長（農商工連携推進監） 内線 4967